

- 1 会 議 名 議会基本条例推進協議会
- 2 日 時 令和 6 年 6 月 18 日（火）
午後 1 時 29 分から午後 2 時 48 分まで
- 3 場 所 第 2 ・ 第 3 委員会室
- 4 出席議員 議員 15 名
- 5 欠席議員 なし
- 6 事務局出席者 議会事務局長 丹羽至、同主任 丹羽亮二
- 7 会長あいさつ
- 8 協議事項

（１） ハラスメント研修の反省及び感想について

井上会長：反省や感想があれば。

木村議員：ハラスメントの研修は、具体的なケースの再現映像を入れたほうがいいと何かの場で伝えていったほうがよいと思った。

井上会長：ほかによろしいか。疑似体験のような講習のほうが印象に残るかもしれない。

片岡議員：ハラスメントに限らず、研修の情報があればこの場で紹介してほしい。

井上会長：何かあれば、会長、副会長、事務局まで伝えてほしい。

（２） 7 月のふれあいトークについて

井上会長：資料に基づき説明。

7 月 3 日、6 日は令和 5 年度のサポーター向けに実施する。今のところ参加者は 3 日が 3 名、6 日が 9 名、未回答が 11 名。3 日は片岡議員に司会をお願いする。7 月 3 日、6 日はクオカード 3,000 円分を渡し、続けていただける方の確認をする。

新サポーターへの説明会は 7 月 10 日と 13 日に実施する。現在の応募状況はいかがか。

事務局：現時点で 15 名から応募があった。説明会は 7 月 10 日に 10 名、13 日に 4 名、日付不明が 1 名。

井上会長：再任については 7 月 3 日と 6 日に意思表示をしていただくが、現時点で既に 2 名の再任希望がある。

（３） 今後の視察受け入れについて

井上会長：資料に基づき今後の予定全般を説明。

関戸議員：10 月 9 日の意見交換会は全国市議会議長会の研究フォーラムで不在のため、8 日に変更してほしい。

片岡議員：前日夜から出発しなければならない可能性もある。

梅村議員：議長不在でも9日に実施してはいかがか。

井上会長：9日のままとする。研究フォーラムのため、ほかにも不在の議員が多いが、ご協力をお願いします。

関戸議員：11月12日の福井県大野市への行政視察だが、昼頃に到着し、先方と交流を行ってから、タブレット導入など議会改革について視察する。

井上議員：ほかにも大野市で視察を希望する内容があれば伝えてほしい。

（４）議会基本条例検証特別委員会が出された課題の解決に向けて

井上会長：内容別に担当を分けたほうがいい。進んでいるものは、タブレット、小学生への出前授業、BCP。まずはタブレットについて議長からお願いします。

関戸議員：急に話が進んでいるためこれまでの経緯を説明する。当局のDX推進室と議長である私が何度か直接話をしてきた。当局は令和7年度からペーパーレス化ということでタブレットを議場にも持ち込んで答弁や議案説明を行うことが決定しているとのこと。議会としては、同時に進めるのであれば、令和7年度の予算化を目指して進めることになる。今からだと時間がないので令和8年度からという意見もあると思う。今日皆さんに決定していただきたいことのひとつは、令和7年度からにするのか令和8年度からにするのかということ。また、仮に令和7年度からとするなら、急ピッチで話を進めなければならないため、特別チームを作り意思決定を行う許可がほしい。この2点について提案する。

井上会長：意見や質問があれば。

大野議員：サイドボックスやモアノート以外のシステムを使用するのであればそれらの講習は必要なくなる。その点を明らかにしないと、いいか悪いかの意見をはっきりと言えない。

関戸議員：当局側は会議システムを入れることは考えていない。議会で違うシステムを導入するのか、当局側に合わせるのかといったところまで決めて話を進めるのであれば、令和7年度の予算化は難しいと考える。

大野議員：大野市もタブレットの研修を行おうという話が出ていたが、大野市はモアノート。違うシステムということであれば研修内容も変えないといけない。もう少し全員で検討すべきでは。

須藤議員：当局と同じシステムであれば、あまりお金はかからないのか。

関戸議員：その通りである。会議システムを使用しない場合、ファイルをそれぞれ自分で開くような形になる。会議システムを使用するとページが一斉に切り替わることになるため、自分のペースで見られないということも

ある。どちらも導入できるのが一番よいが経費がかかる。

須藤議員：以前講習を受けたモアノートは年間の管理料が高いと思った。当局と同じシステムでやった方がよいと思う。

関戸議員：正確に言うと、当局が使用しているデータを議会で使用する共有ドライブに入れ、自分たちでそのファイルを見るというような仕組みになる。

大野議員：タブレット化した場合、タブレットの中で自分のメモを書き込んで残せる形にしないと意味がない。そのような機能を確認しないと良し悪しがはっきりしない。確認してほしい。

梅村副会長：予算化とその期限を決める材料が揃っていない。なぜ今になってこのような話が出てきているかも分からない。当局側から何か提案があってこうしたいというものがあるのであれば説明を受けたい。当局側がどのような資料をデータ化していきたいのか丁寧な説明がないと良し悪しの議論や判断ができない。

関戸議員：当局からは、こういったデータを渡せるようになるかの話があっただけ。それを受けて議会側がそのデータをどうするのかを決める。

大野議員：梅村副会長の意見の通り。当局から説明を受けたほうがよい。分からないまま賛成できない。

井上会長：当局の動きが早かった。タブレット化が動き出してしまっている状況。まず、令和7年度に予算化して話を進めるかどうか。

木村議員：令和7年度の予算に入れてもらうためには急がないといけないということだが、1年間かけて会議システムを入れるかどうかにも検討しながら令和8年度に予算化でよいのでは。

塚崎議員：関戸議員から説明を受けた時に、タブレットを導入したら紙はなくなると聞いたが。

木村議員：全部データになる。例えば今でも予算の積算内訳書必要な人は自分で印刷する。それは政務活動費で印刷すればいい。予算書も同じ形になる。積算内訳書があると、特別会計や事業会計の歳入の部分は印刷が必要になるのでは。会議システムが入れば比較しやすいと聞くが、そうでなければ紙でないと比較が難しいため。

井上会長：いかがか。令和8年度の予算化に向けて研究しながらやるか。

大野議員：議長である関戸議員しか中身を知らず、私たちは当局と意見交換していないので、導入のイメージできない。まずは当局の話を全員で聞きたい。

関戸議員：当局は資料をデータで渡すようになるだけ。その後、そのデータをどのようなシステムで対処するかについて当局が関与することはない。

議会は議会でシステムが独立しているので、もらったデータをどのように見るかを自分たちで決定すればよいだけ。

事務局：当局側はシステムや端末を新しく入れることはない。庁内ネットワークが無線で整備されたことにより、自席のパソコンを持ってどこでも仕事ができるようになったという状況。システムについては、当局は従来からＬＧＷＡＮネットワークによる共有書庫があり、誰でも編集や閲覧ができるが、議員は当然その共有書庫にアクセスすることができないため、議会は議会で別の共有書庫が必要であるということ。行政側のシステムはそのまま使えない。

井上会長：タブレット導入は早急という意見もあるが、事務局も動いている。いかがか。

事務局：タブレット導入というと混乱する。当局としては紙をなくしたい。それを受けて議会側としてはどうするかということで、タブレット導入もひとつの手段であるが、ノートパソコンでもいいし、会議システムでなくてもいい。それを検討する必要がある。その検討材料がないので、令和７年度の予算化は難しいということでは。

井上会長：具体的なことはチームで決めてもらえばよいか。

片岡議員：ＩＣＴチームを決めて、手法や時期についても含め検討した方がよい。

井上会長：市民参加チームとＢＣＰチームとあわせてチームを決める。次の説明に移る。小学生への出前授業については、五条川小学校６年生より依頼があった。１０月２４日（木）午後に自治のことについて議員に話を聞きたいとのこと。以前から小中学生とのふれあいトークは課題となっているので、チームでできたらよいと思う。サポーターの要綱の見直しも市民参加チームで行いたい。

ＢＣＰについては中身に矛盾があるので、読み返して直した方がいい。また、市の防災訓練の際に議会と市の関わりも考えていきたい。

片岡議員：小学生への出前授業は現状どうなっているのか。引き受けたのか。

井上会長：検討中である。

梅村副会長：ふれあいトークとは違うもので、出前授業という新しい形式だが、どういう内容や目的で考えているか。

井上会長：具体的な内容については今後決まるが、市民とのふれあいトークのように議会の役割の説明をし、その後グループに分かれて質問に答えるというような形を考えている。

梅村副会長：子どもが議会を知りたいということなのか。どんな授業でやろうとしているのか。

井上会長：社会科の授業で1学期に自治について学ぶため、岩倉市についてはどうなっているか知りたいと要望があった。具体的にはチームを組んで決めてほしい。

堀江議員：出前授業は学習指導要綱のどの部分に当たるのか確認してからテーマを決めた方がよいのでは。

井上会長：社会科の中で、2学期にはまちづくりの単元がある。もしくは、総合学習に取り入れるのでは。

塚崎議員：子どもたちの要望ではなくて、コミュニティの方の授業の中でのことか。担任の授業のことか。

井上会長：担任の授業の中である。地域の力を借りて勉強する中で、子どもたちが議員の話を聞きたいということだった。

片岡議員：社会科の授業の一環として先生から授業の依頼があったという理解でよいか。

井上会長：そうである。

片岡議員：個人的には協力したい。また、全員で行くのか、任意で行くのかも含めて、まずは受けるかどうかを諮っては。具体的には先生と打ち合わせて決めていくのかと思う。

大野議員：クラスごとにやるのか、学年全体でやるのかでかなり変わってくる。授業は時間配分が大切である。自分も賛成する。まずはチャレンジしてみてはと思う。

井上会長：6年生は3クラスあり、私個人としては、最初は体育館で全体におおまかな説明をし、その後、分かれてクラスごとに質疑応答にしてはと考えている。いかがか。

梅村副会長：もう少し話を進めないとやるかやらないか決めるのが難しい。

井上会長：学校の都合もあるので、引き受けるかどうかまず決めたい。内容に関しては今後相手方も含めて打ち合わせたい。

須藤議員：相手方から依頼があったのだから、テーマは市議会についてとして進めればよいのでは。

鬼頭議員：子ども向けホームページで勉強してもらっているということなので、それを基に話をしたいかがか。

井上会長：話を進めてよいか。

梶谷議員：これは市民参加チームでやるということでよいか。

井上会長：そうしたい。それに加えて議会サポーターのことも市民参加チームで行いたい。では、今からICTチーム、市民参加チーム、災害対応チームの3つのチーム分けを決める。全員いずれかのチームに入ってもらいたい。

I C Tチーム：片岡、堀江、谷平、須藤、関戸

市民参加チーム：水野、日比野、榊谷、大野、井上

災害対応チーム：塚崎、鬼頭、伊藤、梅村、木村

（５）その他

井上会長：計画一覧を見て、常任委員会協議会で勉強したい計画を出していただきたい。証書類審査に向けて各自勉強もお願いする。令和６年度版の行政視察資料も配布したため、気になる点があれば伝えてほしい。

木村議員：よく視察で聞かれる質問の別紙資料もあったと思うが、それも別途作成されるのか。

事務局：視察対応資料については、去年の資料をベースに作成した。必要なものがあれば付け加える。

井上会長：大野市議会への視察テーマも是非出していただきたい。

事務局：早めに先方にテーマを決めて依頼したい。７月、８月のこの協議会で決定したい。

梅村副会長：大野市への視察はどこまでが正式に決まっているのか。現段階の状況を教えてもらいたい。

事務局：テーマはまだ決めていない。日程のみ決定している。

関戸議員：７月１日に大野市の７０周年記念式典があり、先方の議長とお会いするので、交流テーマについて先方の意向を聞いて伝えることはできる。

梅村副会長：交流が目的でもよいと思うが、政策的なテーマを決めて議員と交流するということか。

関戸議員：そのとおり。

井上会長：来月までに流れについてまとめていきたい。

９ その他

井上会長：この後はチームごとに代表者を決めていただきたい。決定後は私に伝えてもらい解散とする。